

24. 麻酔科 ジュニア・レジデントプログラム

1. 研修責任者：荒木和邦（麻酔科 副院長）

2. 研修期間：10 週間以上、（2 年目選択）

3. 目標

【GIO】

麻酔に関わる基本的な知識・技術を身につけ、主治医として麻酔の可否を判断し、また、遅滞無く術前準備が行える臨床能力を培う。

将来の選択枝として麻酔科を含めている場合は、麻酔科医としての適性を見極める。

【SBOs】

- 1) 術前診察や検査データから術前評価を行い、麻酔計画を立てることが出来る。
- 2) 硬膜外麻酔、脊椎麻酔の適応が判断でき、指導医の指導の下で適切に実施できる。
- 3) 心電図・カプノグラフなど術中のモニターを評価し、全身管理が出来る。
- 4) バイタルサインの変動に対し適切な薬剤を使用できる。
- 5) 術中の状態の変化を正しく評価し、必要な処置が出来る。

4. 方略 LS

LS1：OJT

当院で行われる麻酔科管理症例を受け持ち、術前診察を行い、麻酔計画を立てる。

術前カンファレンス：毎朝 8:30-9:00

LS2：勉強会&術前後症例検討：16:00 前後～

翌日以後の担当症例の麻酔計画

術後症例検討 Q&A

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:30～9:00	術前症例カンファレンス					
9:00～	手術麻酔					
16:00～	術後検討会&勉強会					

毎朝、その日の症例について、リスクや麻酔計画の症例カンファレンスを行う。

担当症例の合間や術後に翌日以降の担当症例の術前診察を行い、担当指導医と相談し、麻酔計画を立てる。

5. 評価

OJT、勉強会の場面場面で指導医による形成的評価が行われる。

将来の選択枝として麻酔科を含めている者については、研修終了後、スタッフ全員の意見を参考に、麻酔科医としての適性につき研修責任者が総合評価する。

6. その他

- 1) 習得効率の点から途中で他科ローテーション期間を挟まずに連続したローテーションの方が望ましい。
- 2) 研修期間 10 週間以上が望ましいが、レジデントの研修状況によっては、より短い期間での研修も考慮する。